

### ◆「モータドライブ技術委員会(略称 MD)」が新設されます◆

モータドライブ技術はこれまで半導体電力変換技術委員会（略称 SPC）で扱ってきましたが、

- 1) 一つの独立した技術分野として成長してきたこと
- 2) 半導体電力変換技術に更なる適用分野の拡大があること

等の理由により、2010年4月からモータドライブ技術委員会（略称 MD）を新設し、独立することに決定いたしました。モータドライブ技術委員会新設の趣旨につきましては、下段の設置趣意書抜粋をご覧ください。

新設のモータドライブ技術委員会と改訂された半導体電力変換技術委員会の取り扱い分野は、以下のHPをご参照ください。

<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/15-research/index050.htm>

4月以降、関連するSPC所属の調査専門委員会がMDに移動するとともに、モータドライブ研究会(MD研究会)を随時開催いたします。2010年のSPC研究会資料を予約いただいた会員各位には、今年開催されるMD研究会はSPC研究会と共催する等して、資料の購読にご不便をおかけすることはありません。2011年からはSPC研究会と共催としないMD研究会も開催予定ですので、2010年12月までに研究会資料の予約をお願いいたします。

また、年間予約資料の送付方法についての改善も検討中ですので、決定しましたらご報告いたします。

電気学会産業応用部門 研究調査運営委員会 委員長  
玉井 伸三（東芝三菱電機産業システム）

#### 設置趣意書抜粋：

我が国の電気エネルギーの50%以上はモータにより機械エネルギーに変換され、生産活動や日常生活を支えている。このように、現在ではモータドライブは現代社会に欠かせない技術となっている。更に自動車の電気駆動化に象徴されるような、機械エネルギー利用の電気動力化の進展により、電動機で駆動される対象は今後も拡大されると考えられる。

一方、駆動技術の側面から眺めると、交流電動機のインバータ駆動に代表される高性能なモータドライブ技術は、半導体電力変換回路技術の適用用途の一つとして、回転機技術や制御技術等とともに発展してきた。その結果は鉄道、生産設備、エアコン、家電等の駆動システムの高性能化に活かされ、これらの応用分野の発展を支えている。このような状況の中で近年、モータドライブ技術自体が、システム化された一つの技術分野として成立し、応用分野特有の技術との整合を図ることも求められている。

また、前記のような技術的動向に加え、現在、モータドライブ技術を扱っている半導体電力変換技術委員会が、パワーエレクトロニクス技術の進展とともに広い応用範囲をカバーするようになった結果、柔軟に研究調査活動を実施する規模を越え始めている現状がある。

以上のような技術的なすう勢と、半導体電力変換技術委員会のアクティビティのさらなる質的充実を図る観点から、半導体電力変換技術委員会の関連分野の研究調査活動を移行した上で、要素技術や応用分野の技術委員会と連携しながら、モータドライブ技術に関する研究調査活動を行い、当該技術の進展による社会への貢献を期すことを目的としてモータドライブ技術委員会を設立する。